



月例山行

天生湿原～靱糠山 1744m

10月13日 L畑中、伴野、市橋、柴橋、水谷、中村



▲10:10より登山開始。秋晴れの気持ちの良い気候の中、天生湿原を抜けて、ブナ探勝路より靱糠山へ。途中、急な登り坂を経て12:20山頂着。紅葉には少々早かったものの、ほんのり色付いた木々の葉と青空が綺麗だった。山頂は狭いものの、タイミングよく少しの間貸切状態となり、ゆっくり景色を楽しむことができた。

カラ谷登山道のカツラ門横を通って下山。カツラの葉の甘い香りと秋の涼しい風を感じながら15:00下山完了。春には湿原の花々が美しいそうなので、また訪れてみたい。—記録：畑中

メラック峰(6481m)登頂

登山隊速報

日本山岳会東海支部・インドヒマラヤ・パンゴン山脈・メラック峰(6481m)登山隊

▲当中京山岳会の沖氏を総隊長とする日本山岳会の登山隊は、9月28日メラック峰6481mに立った。



▲9月20日4600m地点にBCを設営。(当初予定の4778m地点は、インド軍の許可がとれず、変更した)21日は全員でC1(5200m)地点を偵察した。22、23日は高所順応を兼ねBC(4600m)-C1(5200m)を往復した。

9月25日にC2(5581m)を建設した。全隊員は26日にBC(4600m)からC1に登り、翌日C2に登って泊まった。

▲28日、全隊員は、C2(5581m)を午前6時05分に出発し、山頂に向かったが、栗木登攀隊長は体調が思わしくなく、午前8時19分に、メラック主峰の手前にあるリトル・メラック(6430m)に向かうことにしたが、岩稜が不安定で登攀が困難と判断し、登頂を断念して、C2に戻って泊まった。印藤義子と久米瞳隊員は、登攀意欲は十分あったが、登頂のルートが大変困難で時間切れになりそうだと予想されたので、安全を期し、山頂に向かうのは、断念した。

▲星隊長と印藤寿浩隊員はメラック主峰を目指し、登攀を続行し、インド人スタッフの3名とともに、**9月28日13時にメラック山頂(6481m)に立った。**



16時45分に全員がC2(5581m)に下山して、宿泊した。翌日9月29日、C2を出発し、C1(5200m)を経由してBCに下山した。前日までの登攀に限界に近いほど勢力を使ったので、下山とはいえ、大変体力と気力を使い、消耗した。都合よく、タンツェ(Tangtse,3800m)から沖允人総隊長と長谷山薫隊員がBCに到着し、全員がそろったところで登頂の乾杯をした。

—— 沖総隊長からのメール抄 (織田記)

